

清央小だより



令和7年度 第15号

2025. 8. 12

HP > <https://www.ueis.ed.jp/school/kiyohara-c/>

教
育
目
標

「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

・自ら学び工夫する子ども (考 える)

・元気でがんばる子ども (鍛 える)

・礼儀正しく思いやりのある子ども(思いやる)

※ 本文は、ユニバーサルデザインのフォントを使用しています。

※ ホームページに掲載する際は、画像を一部加工することがあります。

夏休み特別号②



戦後80年，お子様と考える平和



8月15日は終戦の日です。すでにご承知の通り，我が国は，終戦から80年という節目の年を迎えています。

80年前，私たちの国は戦争を経験し，多くの尊い命と平和な日常が失われました。今の平和な世の中が，当たり前ではないことを，私たちは子供たちに伝えていかなければなりません。

しかし，保護者の皆様もそうであり，そのまた親世代であっても，戦争を直接経験された方がいなくなる中，子供たちに戦争の事実や平和の尊さを伝えてるのは難しいかもしれません。

そのような中ではありますが，15日に，戦後80年という節目の終戦の日を迎えるにあたって，ご家庭で「平和」について話し合う時間を作ってみませんか？

「戦争」は重い話題ではありますが，辛いことから目を背けるのではなく，向き合い，平和とは何かを考え，平和の大切さやありがたさを感じることをしていくことが大切ではないでしょうか。我が国で戦争があったという事実だけでも，話題にしてみてください。



家族で一緒に学ぶ

地域の戦争資料館や平和記念館などを訪れて，当時の人々の暮らしや，戦争がもたらした悲劇について，肌で感じてみましょう。県立博物館では，特別企画展「とちぎ戦後80年～いま，おやと子で知る軍隊・戦争と栃木～」が，今月末まで開催されています。



絵本やテレビ番組，映画を活用する

子供向けの戦争をテーマにした絵本や，家族で鑑賞できるテレビ番組や映画などを通して，戦争とは何か，平和とは何かを考えるきっかけにすることができます。節目の年でもあるため，テレビでも，戦争関連の映画や特集番組が例年より多く放映されます。内容によっては保護者のご指導が必要なものがあると思いますが，その際は，ご指導よろしくお願いいたします。

家庭での会話を大切に

食事の時や寝る前など，日常のふとした瞬間に，戦争の話題や平和への願いについて，保護者の皆様の思いを話してみてください。今，当たり前のように暮らせていることのありがたさを，保護者の皆様の言葉で伝えてください。多分，それが一番お子様の心にも響きます。

私の亡くなった母は，まだ3歳の時に終戦を迎えました。父は5歳でした。それでも，空襲警報のサイレンの音や爆撃機の音などが，「怖い」という記憶と共に残っています。小さな子供にも恐怖を植え付けるのが戦争だと，思い知らされました。祖父は徴兵され，未だに遺体は発見されていません。私にとっての祖父は，軍服姿のモノクロ写真でした。戦後，女手一つで母を育てることになった祖母の苦労話も，存命中に何度も聞きました。これらが，私にとっての「戦争」です。やはり生の声で聴いた話が，一番心に残っています。

未来を担う子どもたちが，平和の尊さを理解し，自分たちで平和な社会を築いていけるよう，学校でも道德の授業などを通して，取り組んでいきたいと思っています。